

クラウド内の Java - 動画スクリプト

皆さん、こんにちは。Steve Perry です。

私たちが作成した人事アプリケーションを覚えていますか？

今回は、そのアプリケーションをクラウド内で実行しましょう。

コードは GitHub の

<https://github.com/makotogo/JavaInTheCloud> からダウンロードできます。

この動画では、次の方法を説明します。

WebSphere Application Server Liberty をダウンロードしてセットアップする

Eclipse Tools for IBM Cloud をインストールする

人事アプリケーションをローカルの Liberty にデプロイする

Eclipse Tools for IBM Cloud を使用してアプリケーションを IBM Cloud にプッシュする

早速始めましょう。

まず、WAS Dev の「Get Started With Liberty (Liberty を導入する)」ページから Liberty をダウンロードします。

URL は <https://developer.ibm.com/wasdev/getstarted/> です。

「Download Liberty with Java EE 7 Web Profile (Java EE 7 Web プロファイルを使用した Liberty をダウンロード)」リンクをクリックして、使用条件に同意します。これで、ファイルがダウンロードされます。

ダウンロードが完了したら、ファイルを圧縮解除します。

私の Mac 上では、wlp フォルダを /Users/sperry/home にある home ディレクトリー内にコピーします。

次は、IBM Cloud Tools for Eclipse をインストールします。

Eclipse を起動して、「Help (ヘルプ)」 > 「Eclipse Marketplace... (Eclipse マーケットプレイス...)」を表示します。

「Find (検索)」ダイアログに「IBM Cloud」と入力します。

次に、「Go (実行)」ボタンをクリックします。

IBM Eclipse Tools for IBM Cloud for Oxygen が表示されます。

「Install (インストール)」ボタンをクリックして、画面の指示に従います。

次は Liberty サーバーを追加するために、「Preferences (設定)」 > 「Server (サーバー)」 > 「Runtime Environments (ランタイム環境)」の順に選択します。

「Add (追加)」ボタンをクリックします。

「IBM」 > 「Liberty Runtime (Liberty ランタイム)」までスクロールダウンして、「Next (次へ)」をクリックします。

「Path (パス)」セクションで、Liberty をインストールしたパスを指定します。私の場合、パスとして /Users/sperry/home/wlp を指定して、「Next (次へ)」をクリックします。

ここではデフォルト値を受け入れて、「Finish (完了)」をクリックします。

「Apply and Close (適用して閉じる)」をクリックします。

Liberty サーバーがセットアップされて、実行可能な状態になりました。

Mac 上では端末ウィンドウから、Windows 上ではコマンド・プロンプトから、コードを配置するディレクトリにカレント・ディレクトリを変更し、git clone コマンドを入力します。

```
git clone https://github.com/makotogo/JavalnTheCloud
```

そして、

Eclipse で、「File (ファイル)」>「Import (インポート)」>「Existing Project into Workspace (既存プロジェクトをワークスペースへ)」の順に選択します。

「Next (次へ)」をクリックします。

「Browse (参照)」をクリックしてコードを複製したディレクトリーを指定するか、絶対パスをそのまま入力します。

JavaInTheCloud プロジェクトが表示されます。

「Finish (完了)」をクリックしてインポートします。

「Servers (サーバー)」ビューを開きます。

「Window (ウィンドウ)」>「Show View (ビューを表示)」>「Other... (その他...)」の順に選択し、「Server (サーバー)」>「Servers (サーバー)」を選択して「Open (開く)」をクリックします。

サーバーを右クリックして「Add and Remove... (追加と削除...)」を選択します。

JavaInTheCloud アプリケーションを選択します。

「Add (追加)」ボタンをクリックし、「Finish (完了)」をクリックします。

サーバーを起動します。「Liberty Server (Liberty サーバー)」を右クリックして「Start (起動)」を選択すると、アプリケーション・サーバーが起動します。

メッセージ「The server defaultServer is ready to run a smarter planet (サーバー defaultServer はスマーター・プラネットを実行できる状態です)」というメッセージが表示されたら、万事順調ということになります。

Chrome を開いて、実行中になっていることを確認しましょう。

アプリケーションは実行中になっているようです。

アプリケーションが Libery の下でローカルに実行されている状態になったので、アプリケーションをクラウドにプッシュします。

アプリケーションを IBM Cloud にプッシュする前に、必ず Liberty サーバーを停止してください。

「Utilities (ユーティリティー)」 > 「Package Server to IBM Bluemix (サーバーを IBM Bluemix にパッケージ化)」の順に選択します。

次に「Add Server (サーバーを追加)」ボタンをクリックします。

私たちが行う必要があるのは、このパート 1 だけです。

「IBM Bluemix」を選択します。

「Next (次へ)」をクリックします。

この画面上で IBM Cloud アカウントの資格情報を入力します。

「Validate Account (アカウントの検証)」をクリックします。

「Next (次へ)」をクリックします。

正しいスペース (私の場合は dev) が選択されていることを確認してから「Next (次へ)」をクリックします。

「Finish (完了)」をクリックします。

「OK」をクリックします。

アプリケーションに付ける名前を入力します。私は `javalearningpath` という名前にします。

「Next (次へ)」をクリックします。

ご覧のように、アプリケーション名はデプロイ先 URL の一部になります。

メモリー制限をデフォルトの 512 MB ではなく 256 MB に設定します。

「Next (次へ)」をクリックし、それから「Finish (完了)」をクリックします。

アプリケーションが IBM Cloud にプッシュされるまで 1、2 分かかるので、それまで待ってください。

アプリケーションがデプロイされたら、Chrome を開いて IBM Cloud 内のアプリケーションにアクセスします。
URL は、

<https://javalearningpath.mybluemix.net> です。

クラウド内にデプロイされたアプリケーションが表示されます。

これで手順は完了です。

Eclipse Tools for IBM Cloud を使用してアプリケーションをクラウドにデプロイできました。

この動画を楽しんでいただけたことを願います。

Steve Perry でした。

ご視聴ありがとうございます！

またお目にかかりましょう。

さようなら！